

静岡
SHIZUOKA

新しいライフスタイル「交流居住」への沼津市の取り組み

都市と田舎に滞在拠点を持ち、双方を仕事や余暇で使い分け、地元の人たちとの交流を楽しみながら生活するというライフスタイル「交流居住」への関心が高まっている。

このような中、沼津市戸田地域は、2005年度総務省「過疎地域における交流居住推進に関する調査」におけるモデル市町村に選定され、翌年度には1泊2日の「モニターツアー」が実施された。

以降、沼津市は沼津市商工会戸田支所とともに「交流居住推進事業」に取り組んでいる。通算3回目となった08年度は、観光色を排し「田舎暮らし」の実体験に近づけるため、日程を2泊3日に延長、戸田地域の生活や特性に基づく3種類の体験（漁業体験、しいたけ栽培、みかん採り）を3回に分けて実施した。また、これまで以上に参加者と地域住民との交流を深めるため、出逢い岬でのスカシユリの植栽、御浜岬でのハマユウの移植、民宿のおかみの指導による戸田B級



御浜岬でのハマユウの移植作業をする参加者と地域住民



椎茸の原木をトラックへ積み込む作業をする参加者

グルメ「へだ港はんぺん」作りなどをを行った。

さらに、この地に移り住んだ夫妻による移住に至った経緯や日々の生活などについての講話・意見交換を行い、実際に「戸田地域で生活する」という事はどのようなことなのか、メリット・デメリットを含め、実状に触れる機会を設けた。

田舎を終の棲家とするため、各地を回り積極的に土地探しをする参加者もいれば、田舎暮らしに漠然とした憧れを抱いているだけの参加者もいる。その思いに温度差はあるものの、それぞれに適した田舎暮らしを選択・決断できるよう、様々な情報を提供する仕組みや強固なサポート体制を築くことが必要である。

第4回目の実施となる本年度は、これらの課題に取り組むとともに田舎暮らしに関心のある方々にこの地域ならではの「田舎暮らし体験」を提供したいと考えている。

神奈川
KANAGAWA

世界遺産へ戦略転換 鎌倉市が7月にも推薦要請

鎌倉市などは「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録を目指し、一度断念した国への推薦要請を7月にも行う方針を固めた。08年5月に「平泉の文化遺産」が国際記念物遺跡会議からよもやの登録延期勧告を受けたのを踏まえ、海外の学識者らを招いて推薦書原案を補強。11年の登録実現に向けて全力疾走態勢に入った「平泉」の後を追いつき、暫定リストからの可及的速やかな脱出を図るといふ。

「鎌倉」は当初、08年度に推薦要請、10年度に登録実現を想定して準備を進めてきたが、「平泉」の登録延期勧告で推薦要請断念に追い込まれた。これを受けて鎌倉市、県、逗子市、横浜市で構成する登録推進委員会と文化庁は、今年1月末から2月初めにかけて英国、マルタ、中国の考古学や建築史の専門家3人を招請。候補資産に含まれる寺院や史跡の視察、国内の学識者を交えた国際会議などを行い、課題を洗い出した。7月までに2回目の国際会議を開き、「平泉」で不十分とされた「普遍的価値の証明」「コンセプトと候補資産との関係」などをさらに補強する。

一方、地元の官民79団体で構成する「鎌倉世界遺産登録推進協議会」は、候補資産の保全費用を捻出するため「散華」の販売を2月から始めた。散華は、寺院で法要の際にまかれる花びらをかたどった色紙。コレクションアイテムや観光土産にもなるよう、鎌倉市内の画家に原画を依頼して「桜」「梅」「名月」の3枚セット(1,000円)を



世界遺産登録を目指し、7月にも国への推薦要請を行う「武家の古都・鎌倉」

作製し、観光案内所などに置いた。

日本では世界遺産として「法隆寺地域の仏教建造物」など14件が登録済み。また暫定リストには「平泉」「鎌倉」など12件が掲載されている。「鎌倉」は「彦根城」と並んで最も早く92年にリストアップされた。しかし当初の「古都鎌倉の社寺とその他の構造物」が、その後登録された「古都京都の文化財」や「古都奈良の文化財」との違いが明確でないとして、コンセプトの練り直しを迫られた。

「武家の古都・鎌倉」は武家が初めて自らつくった政権都市である点を前面に打ち出して、公家社会の京都や奈良との違いを明確にした。そして、源頼朝の鎌倉開幕以来約700年間続いた武家社会から武士道や茶道、華道などが生まれ、簡素にして豪胆、凛とした生き方などが今も日本人の文化や感性に影響を与えていることを強調。これにより「出陣態勢」が整ったとしていたため、「平泉」の登録延期勧告は想定外の出来事となった。

